

## 第3章

# 調査結果の活用

学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析方法の例を作成しました。

学校独自の分析等と併せ、調査結果から、①各学校の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④検証を行うといったサイクルの確立につなげてください。



平成30年度埼玉県学力・学習状況調査

# 調査結果の分析・活用について



本調査は、本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することを目的としています。

各小・中学校におかれましては、調査結果から、①各学校の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④検証を行うといったサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

県教育委員会では、各小・中学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析方法の例を作成しました。各小・中学校におかれましても、独自の分析等と併せて御活用ください。

## 分析・活用の手順

分析

### ①前年度の学年全体の様子を把握し、分析する。→【帳票28】

- ・学年別、教科別の伸びの様子がグラフで示されています。  
県の様子と比較して特徴が見られる部分を確認します。

### ②前年度の学級の様子、児童生徒の様子を把握し、分析する。

→【帳票1】【帳票40】

- ・帳票を前年度の学級ごとに並び替えて、「伸びの平均」や「伸びた児童生徒の割合」を計算します。

活用

### ○伸ばした先生が行っている効果的な取組を、学校全体で共有する。

- ・伸ばした学級の担当者からの聞き取りや、伸ばした教員の授業参観等を行い、効果的な取組を共有します。

その他

### 分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見つけ改善を図る

- ・取組と「学力の伸び」等の相関関係から、自校の成果や課題を見つけます。

## 【帳票28】を活用した分析

分析① 前年度の学年全体の様子を把握し、分析する。

- 【帳票28】「各実施主体の調査結果票」から自校の概要を捉える。  
→ 「年度間の学力の変化」や「学力階層別の伸びの状況」を分析する。

### (1) 年度間の学力の変化

#### 【分析①】学力の伸び幅の違い

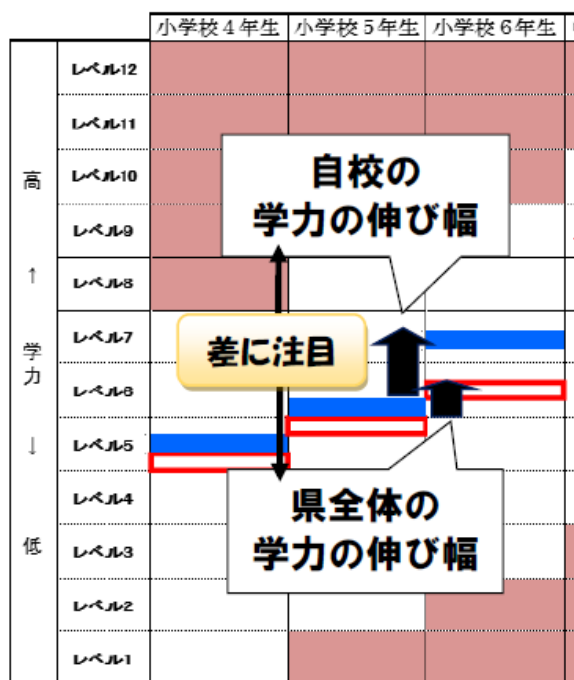
→ 伸び幅が県平均よりも大きい学年や教科を見付ける。

#### 【分析②】学力レベルの違い

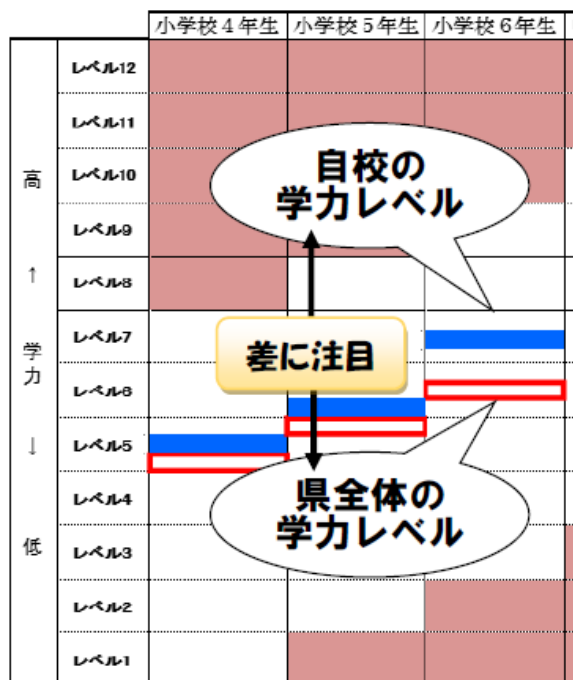
→ 学力が県平均を上回っている学年や教科を見つける。

→ 学力が他学年の同時期を上回っている学年や教科を見付ける。

#### 【分析①】学力の伸び幅の違い



#### 【分析②】学力レベルの違い



※ 【帳票27】では、異なる年度の同学年と学力のレベルを比較することができます。

「伸び幅が大きい」「学力のレベルが高い」学年や教科は、効果的な指導や取組を行っている可能性があります！

## (2) 学力階層別の伸びの状況

### 【分析①】 学力層別の伸びの状況

→ 各学年の中で傾きが大きい学力層を見つける。

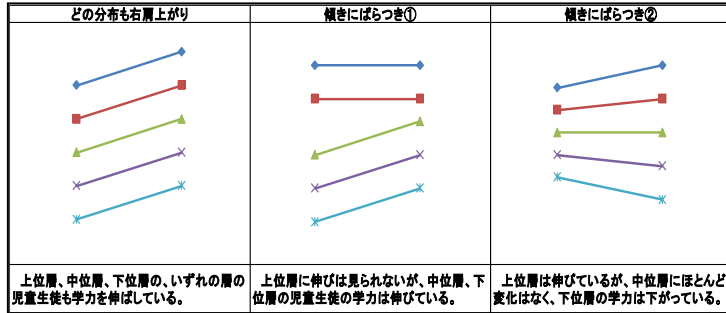
### 【分析②】 埼玉県とのグラフの傾きとの比較

→ 県平均より傾きが大きい学年や教科を見つける。

### 【分析③】 各学力層の学力レベル

→ 県と比較して、学力レベルが全体的に高い／低い、学力階層によってレベルが高い／低いなどの傾向を見つける。

#### <グラフの見方>



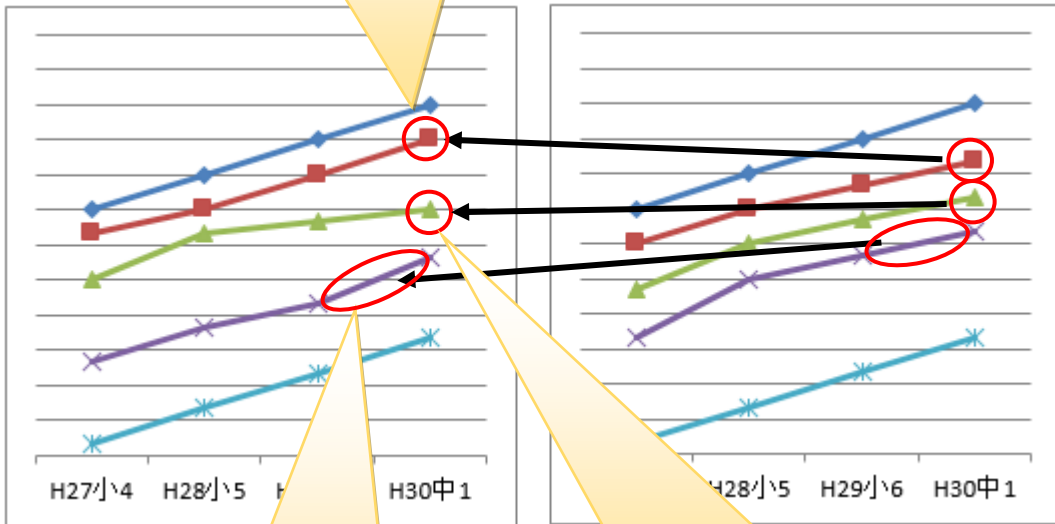
- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- \* ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

#### 分析例

学年の中で上位層の学力のレベルが高い  
⇒ 上位層を伸ばす工夫があったのではないかな。

#### 貴実施主体

#### 埼玉県



下位層のグラフの傾きが  
県のグラフより傾きが大きい  
⇒ 下位層への充実した支援が  
あったのではないかな。

中位層の学力が伸び悩んでいる  
⇒ 前学年でのつまづきがあるのではないかな。

※【帳票26】では、各学年・各教科の「学力の伸びの状況」を一覧で見ることができます。

【帳票1】【帳票40】を活用した分析

分析②

前年度の学級の様子、児童生徒の様子を把握し、分析する。

- 【帳票1】 教科に関する調査 採点結果、【帳票40】 学力分析データ (学習方略・非認知) を前年度の学級で並び替える。

→ 「伸びの平均」や「伸びている児童生徒の割合」を分析する。

今年度のクラス

前年度のクラス

今年度  
(6年2組)

学年	組	出席番号	性別	個人番号	H30レベル	昨年度からの学力の伸び	H29 学校名	H29 学年	H29 組	H29 出席番号
6	2	1	1	1000001	7-B	1	〇〇市立△△小学校	5	3	2
6	2	2	2	1000002	9-A	3	〇〇市立△△小学校	5	1	9
6	2	3	1	1000003	9-A	6	〇〇市立△△小学校	5	2	13
6	2	4	1	1000004	9-C	-2	〇〇市立△△小学校	5	2	14
6	2	5	2	1000005	6-B	3	〇〇市立△△小学校	5	2	15
6	2	6	1	1000006	9-C	-1	〇〇市立△△小学校	5	3	11
6	2	7	2	1000007	6-A	4	〇〇市立△△小学校	5	3	12
6	2	8	2	1000008	5-C	2	〇〇市立△△小学校	5	3	13
6	2	9	1	1000009	8-C	3	〇〇市立△△小学校	5	1	13
6	2	10	1	1000010	7-B	0	〇〇市立△△小学校	5	1	16
6	2	11	1	1000011	9-A	3	〇〇市立△△小学校	5	3	18
6	2	12	2	1000012	7-A	2	〇〇市立△△小学校	5	1	3



昨年度  
(5年3組)

学年	組	出席番号	性別	個人番号	H30レベル	昨年度からの学力の伸び	H29 学校名	H29 学年	H29 組	H29 出席番号
6	2	1	1	1000001	7-B	1	〇〇市立△△小学校	5	3	2
6	2	6	1	1000006	8-C	-1	〇〇市立△△小学校	5	3	11
6	2	7	2	1000007	6-A	4	〇〇市立△△小学校	5	3	12
6	2	8	2	1000008	5-C	2	〇〇市立△△小学校	5	3	13
6	2	11	1	1000011	9-A	3	〇〇市立△△小学校	5	3	18

H29→H30  
学力の伸び

【分析①】 学力の伸びの平均  
 $\{1 + (-1) + 4 + 2 + 3 + \dots\} / N$   
 ・ N = 5年3組の人数

【分析②】 伸びた児童生徒の割合  
 $n / N$

- ・ n = 5年3組の伸びた児童の人数
- ・ N = 5年3組の人数

分析例

n29 クラス	学力の伸び		伸びた児童の割合		主体的・対話的 で深い学び	非認知能力 (自制心)
	国語	算数	国語	算数		
旧5-1	1.85	3.59	73.4%	96.5%	2.4 (+0.3)	2.4(+0.1)
旧5-2	3.42	1.77	91.8%	75.1%	2.1 (+0.1)	2.6(+0.2)
旧5-3	1.53	1.80	77.2%	69.9%	2.0 (+0.4)	2.8(+0.1)

## 分析例

### <例1> 学級ごとの分析 (小学校・学力)

H29 クラス	学力の伸び		伸びた児童の割合		主体的・対話的 で深い学び	非認知能力 (自制心)
	国語	算数	国語	算数		
旧5-1	1.85	3.59	73.4%	96.5%	2.4(+0.3)	2.4(+0.1)
旧5-2	3.42	1.77	91.8%	75.1%	2.1(+0.1)	2.1(+0.1)
旧5-3	1.53	1.80	77.2%	69.9%	2.0(+0.4)	2.8(+0.1)

1組は算数、2組は国語の指導で成果を上げている。  
⇒お互いの得意な教科指導のよい指導方法を共有

### <例2> 学級ごとの分析 (中学校・学力)

H29 クラス	教科 担当	学力の伸び		伸びた生徒の割合	主体的・対話的 で深い学び	非認知能力 (自制心)
		数学	数学			
旧2-1	A教諭	2.87	92.80%	92.80%	2.1(+0.3)	2.4(+0.2)
旧2-2	B教諭	1.65	74.50%	74.50%	1.8(+0.0)	1.8(+0.1)
旧2-3	A教諭	2.36	88.90%	88.90%	2.2(+0.1)	2.1(+0.1)

ベテランA教諭は担当クラスの学力等を伸ばしている。  
⇒若手B教諭へ指導法を継承

### <例3> 学級ごとの分析 (学習方略<sup>\*1</sup>・非認知能力<sup>\*2</sup>)

\*1\*2については最終ページ参照

	A Lの 実施	学習方略						非認知能力		
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	勤働性
県平均	2.1	2.4	2.3	2.5	2.8	2.2	2.1	-	2.7	-
市町村平均	2.2	2.5	2.3	2.3	2.8	2.2	2.3	-	2.8	-
○年生平均	2.1	2.4	2.3	2.4	2.8	2.2	2.2	-	2.6	-
●年1組	2.0	2.3	2.2	2.2	2.8	2.2	2.2	-	2.7	-
●年2組	2.1	2.5	2.3	2.6	2.8	2.1	2.1	-	2.5	-
	学級におけるA L実施状況	状況に合わせて学習方法を柔軟に変更する活動	計画的に学習に取り組み活動	ノートに書くなど、作業を中心に進める活動	友達を利用して学習を進める活動	自分の理解度を深める活動	苦手などの感情をコントロールする活動	自分の意思で感情や欲望をコントロールする力	自分はそれができるという期待や自信	やるべきことをきちんとやる力

柔軟的方略・プランニング方略・作業方略に課題がある。

⇒与えられた課題を解決するために、どう計画し、どのような作業を通して、解決していくかという見通しがもてていない児童がいる

県平均よりもよい結果
県平均よりも悪い結果

【重要】  
昨年度からの  
変更点

#### 学習方略・非認知能力の グラフの見方

- ・5.0~1.0で数値化
- ・5.0がもっともよい数値、1.0がもっとも悪い数値
- ・全ての項目で大きい方がよい数値を表す

昨年度は

- ・1.0がもっともよい数値、5.0がもっとも悪い数値
- ・人的リソース方略の項目のみ、5.0が最もよい数値でした。

### <例4> 児童ごとの分析 (学習方略<sup>\*1</sup>・非認知能力<sup>\*2</sup>)

児童	学力	柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	努力調整方略
A	4-C	3.5	1.0	4.2	1.5	3.7
B	4-B	3.0	3.7	1.3	1.9	4.0
C	4-C	2.6	3.7	2.5	1.3	1.9

学力に課題がある数名をピックアップして分析する。

⇒同じ程度の学力でも、Aさんはプランニング方略、Bさんは作業方略、Cさんは努力調整方略に課題がある。3人に共通して、人的リソース方略に課題がある(他人への依存度が高い)

**1 担当からの聞き取りや、授業参観により、よい取組を把握します。****【方法① 担当からの聞き取り】**

- 前年度、伸びている学年、教科を担当した教員から、学年全体や教科指導で取り組んだことや、共通して実践した指導方法、指導のポイント等の聞き取りを行う。

**<聞き取り例>**

- ・子供たちと接するとき、心がけていること（前向きな言葉かけ、一緒に遊ぶ等）
- ・授業の導入場面での工夫（興味をもたせる導入、めあて・見通しのもたせ方等）
- ・授業の展開場面での工夫（言語活動の充実、ペア・グループ活動の設定等）
- ・授業の終末場面での工夫（まとめの仕方、振り返りの充実等）
- ・学年で指導を徹底した取組（規律ある態度の指導、ノート指導、掲示物の工夫等）
- ・家庭学習の与え方（目安の時間の設定、チェックシートの活用、予習・復習等）

**聞き取りのポイント**

- ・上記の例を参考に、より具体的に、詳細を聞き取ってください。
- ・新たな取組や工夫した取組などにも着目して聞き取ってください。

**【方法② 授業参観】**

- 前年度、学力等を伸ばした教員の授業を参観する機会を設け、授業で見られたよい取組を把握する。

**<参観の視点の例>**

- ・主体的な学びを実現するための工夫  
（学習目標や見通しのもたせ方、まとめと振り返りによる学習の定着等）
- ・対話的な学びを実現するための工夫  
（互いの考えの比較検討の工夫、教師と子供・子供同士の双方向の対話の実現等）
- ・深い学びを実現するための工夫  
（問題解決的・探究的な学習の実践、思考を深める発問や板書等）
- ・言語活動の充実（描写、要約、説明、記録、報告等を文章等でまとめる活動等）

**参観のポイント**

- ・参観するポイントを示すなど、授業後の協議が深まるような工夫をしてください。

## 2 「聞き取りの結果」や「授業参観の感想」等、分析結果を資料にまとめ、全体で協議、意見交換します。



### 校内研修例

**協議例1** どのような学力状況にある子供を重点的に伸ばしていくか。

- 学力が下位で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 「自分の考えを書くことが苦手」で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 伸びている子供を、もっと伸ばしたい。

(例えば伸びが著しい子供が中位層に集中している学校など)

**協議例2** 学年(学校)として、どのようにして伸ばしていくか。

- 効果的と思われる取組を学年(学校)に広げたい。
- 学校の強みとして表れている項目を地域・保護者に広めたい。

## 3 仮説を設定し、それに基づく取組、検証を行います。

- 協議、意見交換を経て仮説を設定し、それに基づいた効果的な取組を共有します。
- 取組を実践し、効果について検証を行います。

● 学年(学校)、教員独自の**仮説を設定**し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説> (協議・意見交換により設定)

例「授業などで、自分の考えを、理由を付けて発表したり書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子供たちが増える。」

<重点項目> (本校の実態及び協議・意見交換から設定)

例 ① 学力の階層が低い子供へのきめ細かな指導を行う。

② 授業規律を大切にする。

※ 上記①②は全教員で重点化して取り組む。



その他

## 分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見つけ改善を図る

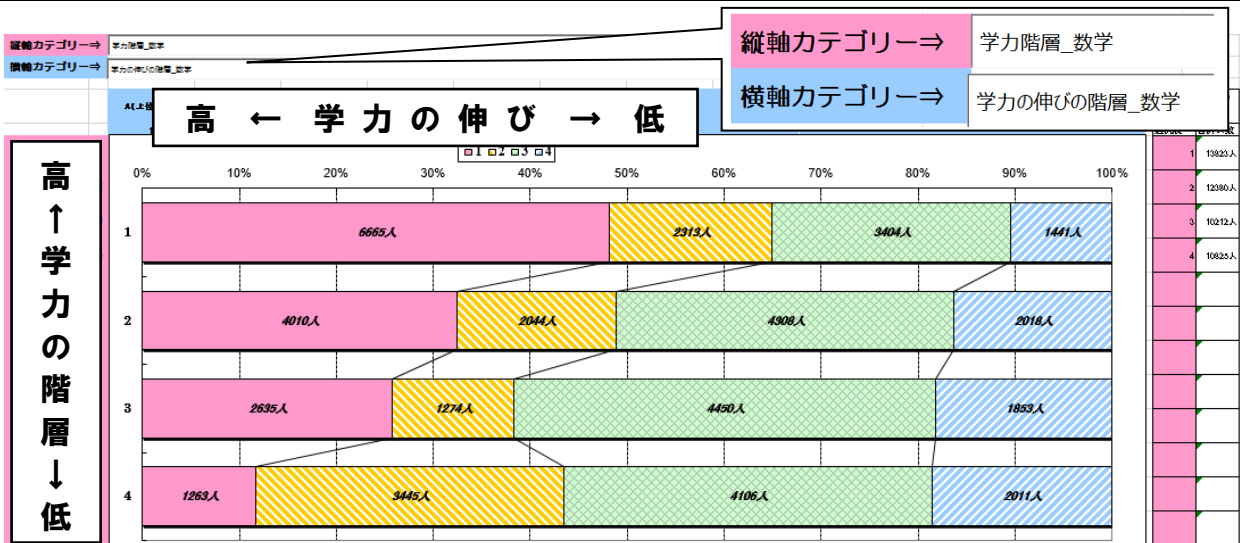
- 分析支援プログラムを使うと、「学力の伸び」や「学力の階層」と質問紙調査との相関関係を簡単に見ることができます。

### 活用例① 「学力の階層」と「学力の伸び」の相関関係を調べる

- 「学力の伸び」、「学力の階層」と質問紙への回答の相関関係を調べます。

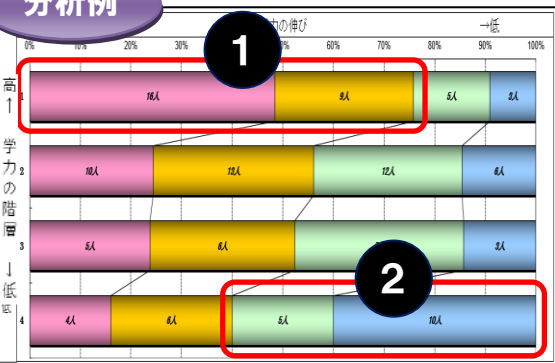
※ 分析支援プログラム「①クロス集計」を利用します。

手順1 「学力の伸びの階層」と「学力の階層」をクロス集計し、それらの分布をみる



手順2 自校の子供たちの学力を、「学力の伸び」と「学力の階層」の視点から分析する

#### 分析例



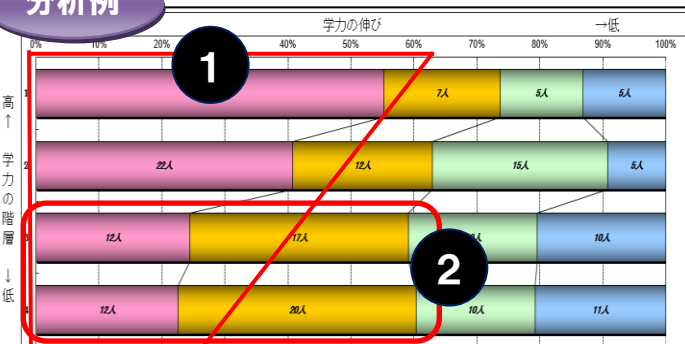
1 学力が高い階層は学力が伸びている。

2 学力が低い階層は学力が伸び悩んでいる。

⇒理解の進んでいる子供の発言を中心に授業が進んでいないか。

⇒学力階層の低い児童生徒が自分の考えを持てるような支援が必要ではないか。

#### 分析例



1 学力の高い階層の方が、学力の伸びが大きい。

2 学力が低い階層の伸びをさらに高める必要がある。

⇒各階層に属する児童生徒により構成されるグループ等で、互いの考えを交流する場面があるとよいのではないか。

## 活用例② 「質問紙調査」と「学力の伸び」を視点とした分析

※ 分析支援プログラム「①クロス集計」を利用します。

手順1 分析の視点を設定し、該当する質問紙の項目を選ぶ。

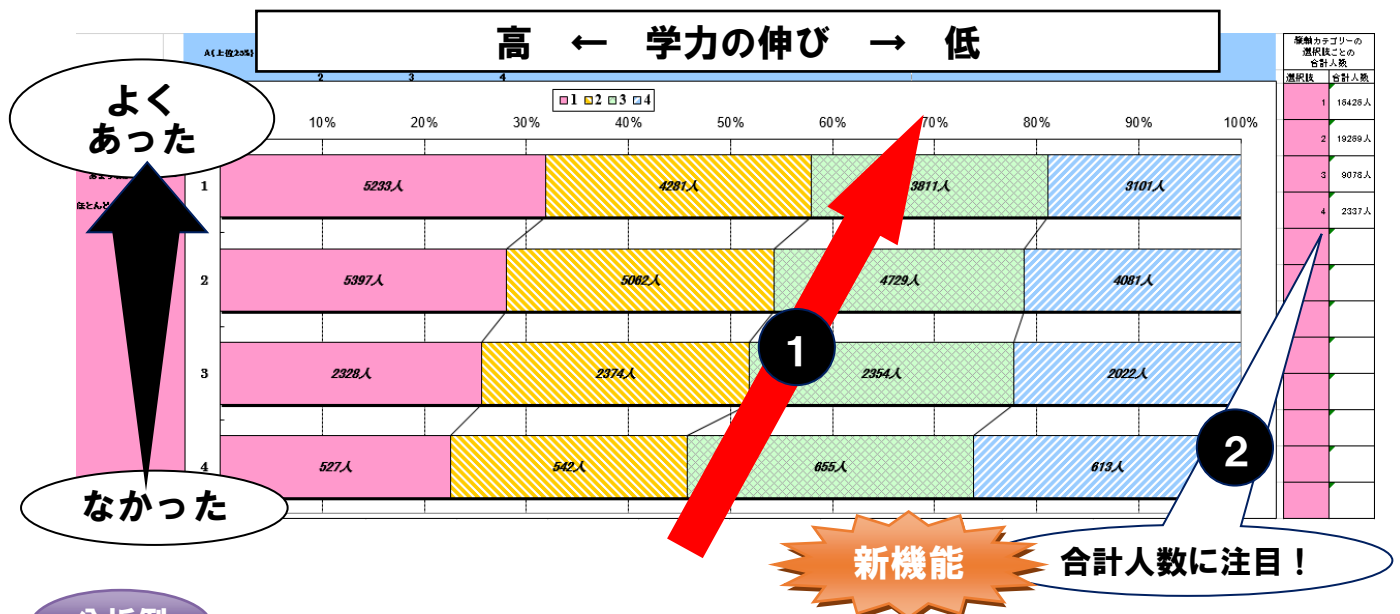
### 分析視点例1

どのような授業が、児童生徒の学力を伸ばしているのか？

手順2 「質問紙項目」と「学力の伸び」の視点から分析する。

### 質問紙項目例

自分の考えを理由を付けて発表したり書いたりできたこと



### 分析例

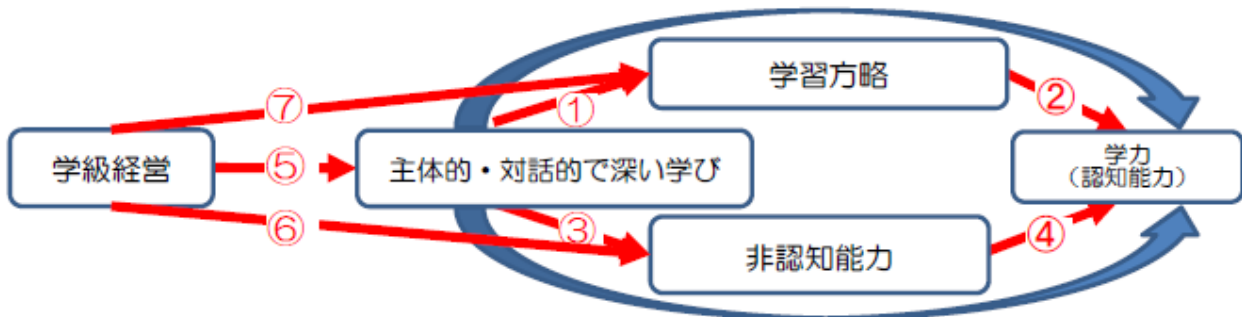
- 理由を発表したり、書いたりする機会が「よくあった」と感じている児童生徒の方が、学力の伸びが大きい傾向がある。  
⇒教科を問わず、解答するときは答えだけではなく、その理由を聞き返すようにしたらよいのではないか。
- 理由を発表したり、書いたりする機会が「よくあった」と答えている人数のほうが、なかったと答えている人数より多い。  
⇒発表のときに答えだけでなく、その理由も考えている児童生徒が多い。  
理由を考えさせるような工夫があるのではないかと。  
⇒なかったと回答する児童生徒を減らすために、どのような取組を行ったらよいだろうか。

- 各学校へ送付した帳票やデータは、併せ見たり、組み合わせたりすることで、多様な分析を行うことができます。
- 分析例を参考に、多面的な分析を行うことで、効果的な取組や課題の把握につながります。



○ 「埼玉県学力・学習状況調査」の分析からわかったこと（概要）

**「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる。**



【①～④】主体的・対話的で深い学びは、子供たちの「非認知能力」や「学習方略」の向上を通じて、学力を向上させる。

【⑤～⑦】「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子供たちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要

→「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。  
 「学級経営」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばす。

**<参考> 非認知能力とは？**

→意欲や姿勢などのように数値化されない能力  
 本調査では、自制心、自己効力感、勤勉性、やり抜く力を測定

**人間の能力**

いわゆる学力であり、  
 たし算、漢字の読み書き、文章題、図形の把握などができる力

認知能力

非認知能力  
 (認知能力ではない能力全般)

(具体的な例)

自制心	イライラしない、心の平静を保てる など
自己効力感	自分への自信、自己肯定力など
勤勉性	やるべきことをきちんとやる など
やり抜く力	粘り強い、根気がある など

23

**<参考> 学習方略とは？**

→学習の効果を高めるために児童生徒が意図的に行う活動  
 本調査では、以下の6つの方略に分類

<p><b>柔軟な方略</b></p> <p>学習の仕方を自分の状況に合わせて柔軟に変更していく活動</p> <p>&lt;質問例&gt;              勉強でわからないところがあったら、やり方を色々変えてみる。</p>	<p><b>プランニング方略</b></p> <p>計画的に学習に取り組む活動</p> <p>&lt;質問例&gt;              勉強するときは、最初に計画を立ててから始める。</p>	<p><b>作業方略</b></p> <p>ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動</p> <p>&lt;質問例&gt;              勉強で大切なところは繰り返し書いたりして覚える。</p>
<p><b>人的リソース方略</b></p> <p>友人を利用して学習を進める活動</p> <p>&lt;質問例&gt;              分からないところがあったら、友達に勉強のやり方を聞く。</p>	<p><b>認知的方略</b></p> <p>より自分の理解度を深めるような学習活動</p> <p>&lt;質問例&gt;              新しいことを勉強するとき、今まで勉強したことと関係があるかどうか考えながら勉強する。</p>	<p><b>努力調整方略</b></p> <p>「苦手」などの感情をコントロールして学習への動機を高める活動</p> <p>&lt;質問例&gt;              問題が退屈でつまらない時でも、それが終わるまでやり続けられるよう努力する。</p>

24



【帳票40】を活用することで、非認知能力や学習方略について分析することができます。

# 県学力・学習状況調査を活用した実践事例



## 実践事例 1 「昨年度の担任ベースに並べ替えて、伸ばしているクラスの取組を共有する」

### 【A小学校の例】

昨年度のクラス	学力の伸び		伸ばした児童の割合		A L	柔軟	プランニング	作業	人的リソース	認知	努力調整	自制心
	国語	算数	国語	算数								
旧5-1	4.2	1.1	92%	60%	3.9	3.4	4.5	3.0	4.8	3.8	4.8	3.8
旧5-2	2.6	4.5	72%	95%	4.7	3.6	2.0	3.5	3.0	4.9	3.9	3.7

   は、注目すべき項目の数値

学力を伸ばしているクラスの取組を共有するための協議

□□先生の国語の指導方法は、どのような指導をしたのですか？

書かせる活動を多くしました。ただ書かせるのではなく、キーワードを入れて書かせていました。

私もその実践に取り組みたい!!

これまでの実践はよかったんだ～

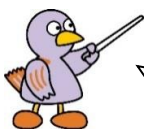
### 【効果的な指導】

<旧5-1から>

- 国語の学力の伸びが高かったのは、書く活動をたくさん取り入れ、文章を書くことの苦手をなくしたからではないか。
- 努力調整方略の数値が高いのは、粘り強く最後までやり抜くことができるように声かけやヒントカード等の支援を行ったからではないか。
- 人的リソース方略の数値が高いのは、自力解決の時間をきちんと確保し、一人一人がじっくりと考える場面を設定をしたからではないか。

<旧5-2から>

- 算数の学力の伸びが高かったのは、児童の発表に対して、他の児童に「どうしてこうなったのか」と問い返したからではないか。
- 認知的方略の数値が高いのは、既習事項を振り返り確認してから、問題を解くような指導を心掛けたからではないか。
- A Lの数値が高いのは、グループで話し合う時には、話し合う視点をきちんと与えてから話し合わせるようにしたからではないか。



大切なことは、学力を伸ばしている教職員の指導方法をみんなで共有して、授業改善に生かすことだよ。また、伸ばしている先生の授業を実際に観ることも効果的ですよ。

実践事例2「コバトンのびのびシートを活用して、学力に課題のある児童生徒について学力や学習の状況を把握し、効果的な指導方法を話し合い、共有する。」

【B小学校の例】

**コバトンのびのびシート**

年度	正答率	レベル	伸び	話す・聞く・書く		読心	算数
				話す・聞く	書く		
H30	63.3	6-B	3 (1)	25.0	88.9	58.8	
H31	40.3	5-C	0 (2)	36.4	42.9	28.6	57.1

項目	内容		H30	変化
	AL	「主体的・対話的で深い学び」ができていたか		
学習方法	柔軟的方略	学習の進め方を自分の状況に合わせて柔軟に変えていく活動	3.1	0.3
	プランニング方略	計画的に学習に取り組む活動	3.0	0.2
	作業方略	ノートに書いたり、声に出したりといった作業を中心に学習を進める活動	2.8	0.3
	人的リソース方略	すぐにやり方や答えを聞かずに学習を進める活動	1.6	-0.3
	認知的方略	より自分の理解度を深めるような学習活動	2.6	0.1
	努力調整方略	「苦手」等の感情をコントロールして学習への意欲を高める活動	1.8	-0.2
学習意欲	自制心	自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力	3.3	0.2

**学習方略と非認知能力の変化**

**学力レベルの変化**

実力テスト(国語)		実力テスト(算数)										
話す	聞く	書く	読心	漢字	数と計算	量と測定	図形	位置関係	図形	数量関係	図形	数量関係
78	87	40	87	89	90	67	55	50	45	70	40	40
88	68	56	80	88	97	70	66	66	50	80	45	45

**伸ばしたいところ**

国語  読む  話す  聞く  書く  漢字  言葉のきまり

算数  分数の計算  小数や分数の四則計算の定着と活用  図形  面積  体積  速さ  メートル法の単位の変換

その他: 文章問題を解くことが苦手

学習に取り組む態度  積極的に発表する  グループなどの話し合い活動時に積極的に発言する  全体の前で発表する  最後まで粘り強く取り組む  宿題を忘れずにやる  様々な考え方を表現しようとする  はいと返事をする  人の話をしっかりと聞く  ノートをきちんととる  提出物の期限を守る  学習で役立つものを忘れずに用意する  友達と協力して学習に取り組む  一人で集中して学習に取り組む  学習用具の整理整頓をする  時間を守る  その他: 物事をあらかじめしよう

国語: 書くことが苦手、すらすらと文章を書くことができない。そのため、作文を書くときは、構成がうまくたてられるように、事前に作文メモを作成してから、作文を書くようにさせた。今後、作文メモを作成しなくても、自分で構成を組み立てて書くことができるように支援していく必要がある。

算数: 全体的に算数を苦手としている。特に文章問題に苦手意識があるため、見ただけですくにきらめてしまう。そのため、問題を理解しやすく図で表し、ヒントカードを選び、最後まで一人でとれるように支援した。今後、たくさん問題を解かせ、自信を付けさせる必要がある。

態度: 苦手なことでもあらかじめ最後までやるように、励ましながら支援した。今後たくさん頑張る場面を設けていく。

のびのびシートから先生の眩き

〇〇さん、図形の分野が弱いよね……。どうしたらいいかしら？

研修会や普段の職員室で

今までに習った図形の復習をスモールステップで徹底的に！

〇〇さんの図形の分野を伸ばすにはどのような指導をしたらいいですか。

私も、授業でそうしてみよう

図形の角の大きさに色を塗って見せるとはっきりと分かると思うよ。

図形の分野のときには、具体物を準備するといいわよ！

- 【他にも・・・コバトンのびのびシートから見えること】**
- ①国語の「話す・聞く・書く」の領域が弱い。
  - ②「努力調整方略」が低く、昨年度より数値が下がっている。
  - ③「人的リソース方略」が、昨年度より数値が下がっている。
  - ④「将来の夢や目標」をどちらかと言えば持っていない。
  - ⑤家庭学習の時間が30分～1時間以内である。
  - ⑥家の人とあまり話をしていない。

- 【具体的な支援】**
- ・授業中での支援
  - ・授業外での支援
  - ・学校行事等での支援
  - ・部活動での支援
  - ・家庭と連携しての支援
- など

大切なことは、教職員で、「コバトンのびのびシート」をもとに、よりよい指導方法について話し合いをし、それをみんなで共有することだよ。

## 第4章

# 特徴的な学校の取組の紹介

児童生徒の学力を大きく伸ばした学校の実践を紹介します。

本調査を活用し、児童生徒の学力の伸びを引き出した効果的な取組を、自校での今後の取組の参考にしてください。

今年度は、8校の取組を紹介します。





# 戸田市立新曾北小学校の取組

## 1 本校の概要

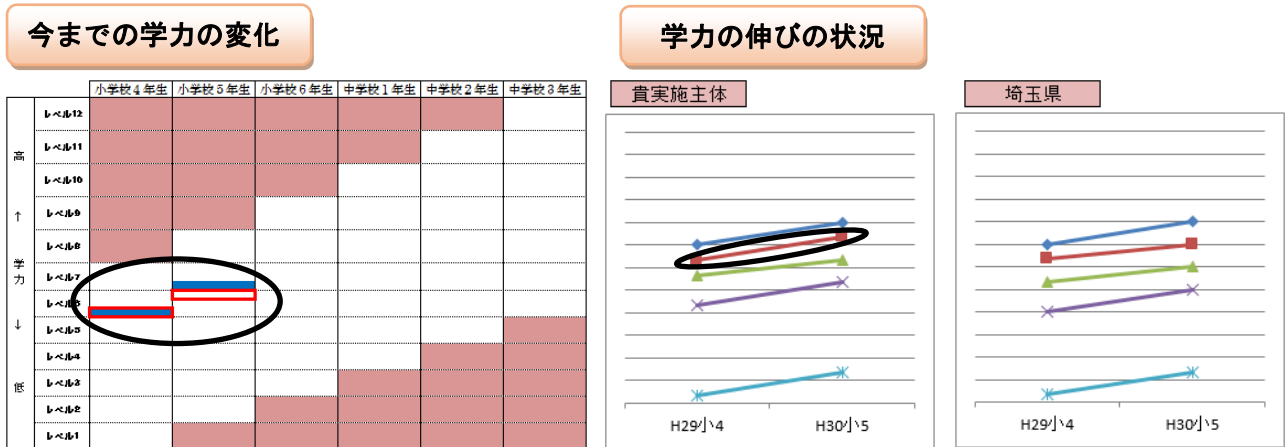
本校は、戸田市の中央部に位置し、本年度は、開校 46 周年を迎える学校である。全校児童数は、721 名、学級数は 26 の中規模校である。学区には JR 戸田駅があり、さらに、市の公共施設等も多く、学習に有効活用している。学校応援団活動も根付いており、地域の教育力を生かした教育活動を日々実践し、学校教育目標「かしこく やさしく たくましく まっすぐに」のもと、保護者・地域・学校が一体となり元気な学校づくりに努めている。

また、平成 27・28・29 年度は戸田市教育委員会の研究委嘱を受け、「豊かに学び、生き生きと思いを伝え合う子供の育成～思考力・判断力・表現力を育てる言語活動の充実～」を研究主題に掲げ、国語科の校内研修に取り組んだ。

## 2 平成 29・30 年度の結果

### 小学校 4 年生→小学校 5 年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】



- 国語の学力の伸びが県平均の伸びを上回っている。
- 特に、上位層の「学力の伸び」が大きい。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア、「課題を見出す・自覚する（主体的な）学び」の推進

- ① 単元全体の中で、言語活動を意識した学習計画表を示したり、活動のゴールとなる作成物の見本を見せたりすることで、課題を明確にするとともに、課題解決へ向けての見通しをもたせた。
- ② 子供たちが自ら学習課題を見出すことができるように、共通点・相違点に着目させて気付かせるなどの「しかけ」を設定し、主体的な学びを促した。

##### イ、「生き生きと思いを伝え合う（対話的な）学び」の推進

- ① 3人組での話し合い活動「北小トライアングル」により、課題解決に向けて、互いの考えを伝え合い、認め合う交流場面を設定し、対話的な学びを進めた。
- ② 双方向的に情報を共有できるタブレット学習ソフト（ミライシード、ロイロノート）のデジタル思考ツールを活用するなど、子供たち同士の意見を可視化して伝え合うことで、対話的な学びを進めた。



## 小学校5年生→小学校6年生の取組

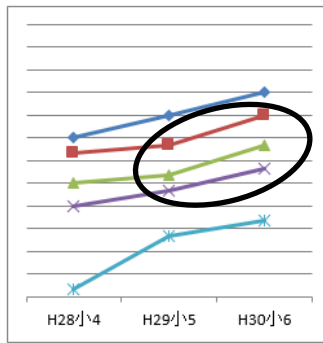
### (1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

#### 今までの学力の変化

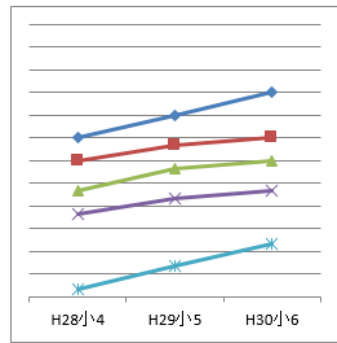
	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
高 ↑ 学 力 ↓ 低	レベル12					
	レベル11					
	レベル10					
	レベル9					
	レベル8					
	レベル7					
	レベル6					
	レベル5					
	レベル4					
	レベル3					
	レベル2					
	レベル1					

#### 学力の伸びの状況

##### 貴実施主体



##### 埼玉県



- 小5から小6にかけて、学力レベルが4上昇し、県平均の変化を大きく上回っている。
- 上位層・中位層・下位層とも「学力の伸び」が県平均の伸びを上回っている。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア、「生き生きと思いを伝え合う（対話的な）学び」の推進

- ① 「北小トライアングル」を算数の授業でも取り入れ、互いの考えを伝え合い、学び合う学習づくりを進めてきた。その際、自分の考えを図や式等で表すこと、それらを指し示しながら相手に説明することを繰り返し指導した。
- ② イメージが捉えにくい「式と図のつながり」や「量感」の理解が深まるように、量を単位ごとに視覚化するなど教材の工夫を行った。また、子供たちが自分の考えを相手に伝えるときに活用するよう促した。

#### イ、「学びの変容を自覚する（深い）学び」の推進

- ① 児童が学習を振り返り、まとめを記入する時間をもつことで、学習した内容を自覚できるようにした。また毎時間、適用問題に取り組むようにし、学習の定着の程度を確認してきた。
- ② 「ファイトコース」と名付けた発展的な内容の問題に取り組むようにし、数学的な見方・考え方を働かせる場面を意図的に設定した。



北小版ジグソー型思考ツール

## 学校全体での取組

#### ア、非認知能力育成プログラムの取組

本校では、「やり抜く力」「協調性」「自制心」「コミュニケーション能力」の四つの柱で非認知能力を捉え、授業だけではなく、学級活動、家庭学習等、様々な場面での育成を目指した。

#### イ、戸田市アクティブ・ラーニング指導用ルーブリックの活用

アクティブ・ラーニングの視点からPDCAサイクルに基づき、不断の授業改善を図っていくことが児童の学力向上につながると思う。そこで、戸田市全体で活用している指導用ルーブリックを常に意識し、授業改善を行った。

#### ウ、「対話的な学び」の推進～北小トライアングルの活用～

国語科で取り組んできた「北小トライアングル」による対話的な学習を発展させ、「課題の明確化」「思考ツールの活用」も取り入れ、深い学びにつながるような校内研修を進めてきた。なお、課題解決に向けて、互いの考えを伝え合ったり、認め合ったりして交流し、新たな気付きや価値等を見出す3人組の活動を本校では「北小トライアングル」と呼んでいる。

#### エ、その他

本校では、本年度から、「よいところを相互に認め合える授業づくり」を目指して図画工作科の研究を進めている。表現と鑑賞を繰り返す授業デザインが、図画工作の授業研究にとどまらず、全教科等に波及していく指導法として確立することで、さらに豊かに思いを伝え合う児童の育成が望めると考えている。

### やり抜く力

**学級活動の取組**

本校の学級活動では、学級全体で生活の課題について考え、自分自身の目標をもち、実践し、振り返りを行っています。自分の目標をもって取り組むことで、成功体験を積み、やり抜く力を育てます。

**多読の取組**

地域にある市立図書館を利用し、読み聞かせボランティアの力を借りて多読に取り組んでいます。百冊（低学年）・五千ページ（高学年）を目標として、読書に挑戦することで、やり抜く力を育てます。

**非認知能力育成プログラム（一部）**

### アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

**アクティブ・ラーニングの視点から、PDCAサイクルに基づき、不断の授業改善を図っていくことが、児童生徒の学力向上につながる。**そこで、授業を自己・他己評価する際の基本的な4項目を指導用ルーブリックとして示した。

- 1 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。**  
【目指すべき目標・評価基準の明確化】
- 2 子供が自分の考えを表現することができていたか。**  
【主に主体的な学びの視点】

**指導用ルーブリック（一部）**





# 川越市立芳野小学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、川越市の北東部に位置し、本年度は、開校 146 周年を迎える学校である。全校児童数は、364 人、学級数は 12 の中規模校である。

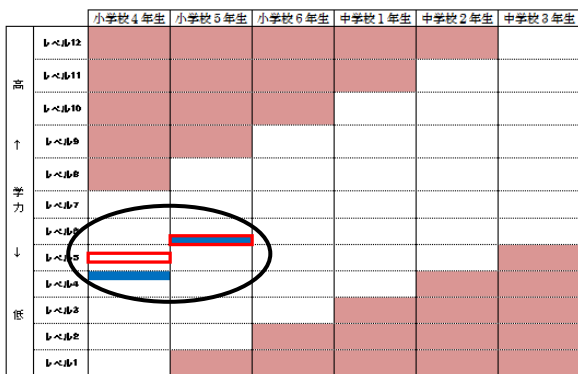
学校教育目標「かしこい子 やさしい子 たくましい子」のもと、「自ら考え、自信を持って行動する児童の育成」を本年度の重点に置き、教職員の行動目標である「凡事徹底」を合言葉に全教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。昨年度から、研究課題を「豊かな人間関係を築き、自分たちの生活をよりよくしようとする児童の育成 ～「読むこと」(説明文)の取組を通して～」と設定し、国語科の説明文の授業研究を中心に進めている。

## 2 平成29・30年度の結果

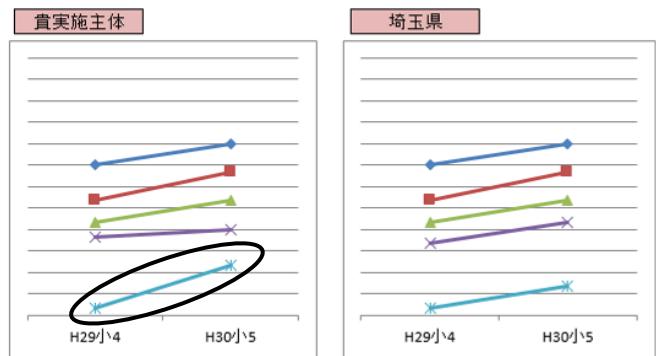
### 小学校4年生→小学校5年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

##### 今までの学力の変化



##### 学力の伸びの状況



- 算数の学力のレベルが県平均を下回っていたが、大きく伸ばし、県平均と同等になった。
- 特に、最下位層の「学力の伸び」が大きい。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア、「芳野小 算数の学習過程」の確立

本校では、算数の1時間の授業の流れを確立し、教師だけでなく児童も見通しを持って授業に取り組めるようにしている。授業の冒頭では、「のびのびタイム」と題し、本時の学習内容と関連のある既習事項を中心に、計算問題等に取り組む時間を設け、授業の見通しを持たせるとともに、基礎学力の向上につなげている。

また、児童の主体的な活動から多様な考えを引き出せるよう、ペアやグループでの話し合いなど表現する時間を十分に確保し取り組んでいる。

##### イ、個に応じた指導の充実

県学力調査の結果をはじめ各種調査の結果分析から、知識だけでなく活用する力を伸ばすために、単元によって指導形態をTT、少人数指導、学年での習熟度別指導と弾力的に変えている。

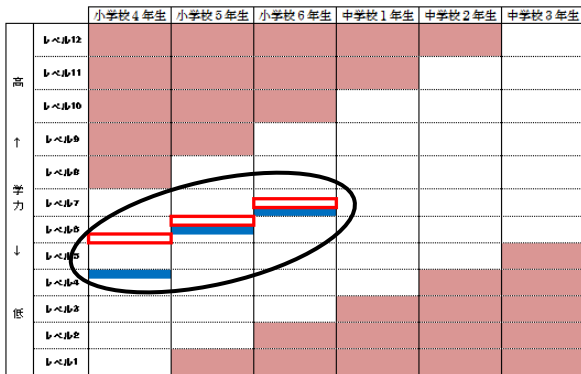
また、計算が苦手な児童に対して、担任外による業前(15分間)の個別指導を通して、基礎学力の定着も図っている。この取組により授業では、意欲的に学習へ参加するようになった。

**芳野小 算数の学習過程**

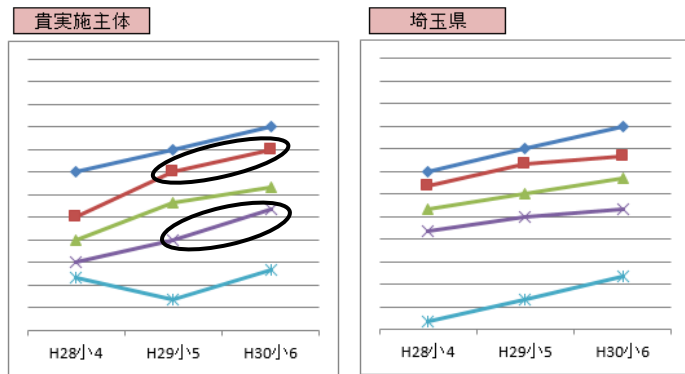
## 小学校5年生→小学校6年生の取組

### (1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

#### 今までの学力の変化



#### 学力の伸びの状況



- 小4時は学力が県平均を大きく下回っていたが、学年が上がるとともに県平均に近づいている。
- 全体的に大きな伸びが見られるが、特に上位層、下位層の「学力の伸び」が大きい。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア、説明文の授業を通して、学力の基盤である読解力を身に付けさせるための取組

一問一答式の授業にならないよう、説明文の重点指導である①内容の理解、②構造の理解、③読解技能の理解、の3つの理解を意識しながら、言語活動中心の授業を行っている。また、読むことと書くことを関連づけた指導である、単元を貫く言語活動の指導を中心に全学年で授業実践を積み重ねている。

#### イ、主体的・対話的で深い学びの授業実現を目指した取組

共有化の場面では、社会科の学習等で実績がある知識構成型ジグソー法を積極的に取り入れ、「協調学習」が起きやすい環境を意図的につくっている。



ジグソー法の様子（3人グループ）  
エキスパート活動 → ジグソー活動

#### ウ、書く活動の充実

活用する力を高めるために、授業のまとめでは、文字数の設定や2段落にして書くといった条件作文に取り組んでいる。また、授業の終末に「本時で何を学んだのか」、「今後どのように活用するのか」といった視点での振り返りを、1年生から継続的に実施している。学年とともに、振り返りの質が向上し、学んだことを活用してみようという意欲の向上につながっている。

### 学校全体での取組

ア、全校で毎週木曜日のモジュールの時間を活用して、15分間程度、文章や詩などの視写に取り組んでいる。

イ、様々な日本語の表現に触れ、親しんで欲しいとの願いから、詩や古文、百人一首などの暗唱に取り組んでいる。

ウ、読書の推進とともに、音読の取組の中に、教科書だけでなく、毎月「今月の詩」と題し、詩や古文にも触れさせ、語彙力を高めている。また、学年ごとに音読発表を行い、成果を認め合う場を設けている。

エ、県が作成したコバトン問題集や市が作成した「ときもドリル」を積極的に活用している。授業では、問題に対しての解説、家庭では繰り返し問題を解くといった活動を通して、学校と家庭が連携して学力向上に努めている。

#### 暗唱の取組 校長 最終検定の様子



低・中・高学年の暗唱プリントコーナー  
各ブロックで10枚ずつ暗唱し、高学年をクリアすると百人一首に挑戦



# 熊谷市立熊谷西小学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、埼玉県北部に位置し、国宝「歓喜院聖天堂」をはじめ、関東一の祇園と称される「うちわ祭」や2019年ラグビーワールドカップ開催地である熊谷市に所在し、創立146年を迎えた歴史と伝統のある学校である。全校児童数は、553名、学級数26の大規模校である。

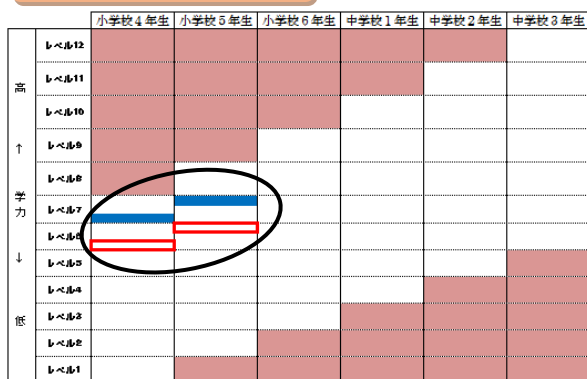
学校教育目標『確かな学力を身に付け、心豊かにたくましく生きる児童の育成 ～知・徳・体のバランスのとれた教育活動を推進し、「学力日本一」を目指す～』のもと、全教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。昨年度から、研究課題を『「主体的・対話的で深い学び」のある授業を目指して～インクルーシブ教育の見える化の実践を土台として～』と設定し、国語・算数・理科の授業改善を中心に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを進めている。

## 2 平成29・30年度の結果

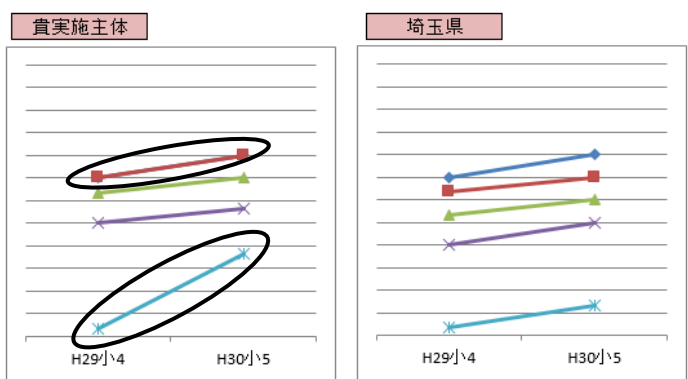
### 小学校4年生→小学校5年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



- 国語の学力のレベルが、もともと県平均より3高いが、1年間でさらに2伸ばしている。
- 上位層の児童が多い。また、特に最下位層の学力が大幅に伸びている。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア、「深い学びシート」の作成

主要教科に関する1時間の学習の流れを明確にし、ゴールを見通した単元計画を組めるようにした。また、深い学びとなる言語活動の充実を目指し、目的意識をもった話し合い活動が意図的に展開できるよう指導計画を作成し、他者と協働して課題解決が図れるようにした。

##### イ、「深い学びシート」の活用

国語・算数・理科において、各教科特有の「見方・考え方」を働かせて「主体的・対話的で深い学び」のある授業を展開できるよう、「深い学びシート」を基に毎時間の授業構成を考えた。経験年数に関係なく、授業の質を確保し、これからの時代に求められる資質・能力を子供たちが確実に身に付けられるようにした。

国語科の授業スタイル（主体的・対話的で深い学びのある授業）

A 話すこと・聞くこと

導入

- 授業の導入や課題の出し方を工夫し、児童の興味・関心を引く。
  - ・話し方のよい例と悪い例を比べさせる。
  - ・単元のゴールを意識させる。
  - ・子供の疑問から課題をつくる。
  - ・「授業のスタートライン」をそろえる。（全員参加）
    - ①学習に対して苦手意識をもつ児童に、授業スタート段階で積極的に話しかける。
    - ②全員がスタートできることを向か一つづつ。
  - ・疑問点の課題を設定する。（課題をより明確に）

課題解決

○解決の見通しをもたせる。
 

- ・国語科の話すこと・聞くことの「見方・考え方」を働かせ、考えさせる。
- 自分の考えをノートに書かせる。

対話

いつ 誰と 何を どの視点で

話し決め スピーチ練習 ゴールの発表会  
 パア グループ クラス全員  
 話しを 話しを 話しを  
 国語科の話すこと・聞くことの「見方・考え方」

○自分の考えを再確認させたり、もう一度スピーチの場

《国語科の話すこと・聞くことの「見方・考え方」》

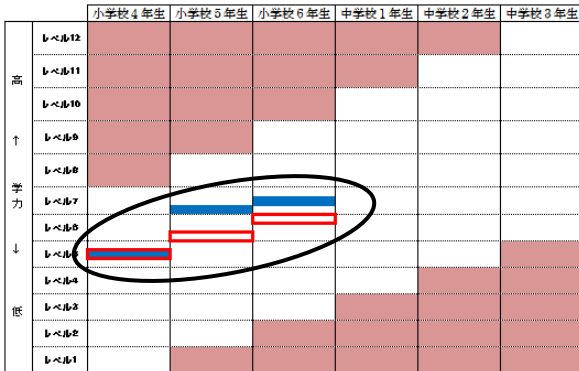
	第1学年・第2学年	第3学年・第4学年	第5学年・第6学年
話題	身近なこと	目的意識を持って、日常生活の中から	目的や意図に応じて、日常生活の中から
構成	事例の提示	理由や事例	事実と感想、意見とを区別する話の構成
表現(スピーチ)	声の大きさや速さ	言葉の抑揚や強調、問の取り方	資料の活用 自分の考えが伝わるような表現

意図を明確にした「深い学びシート」

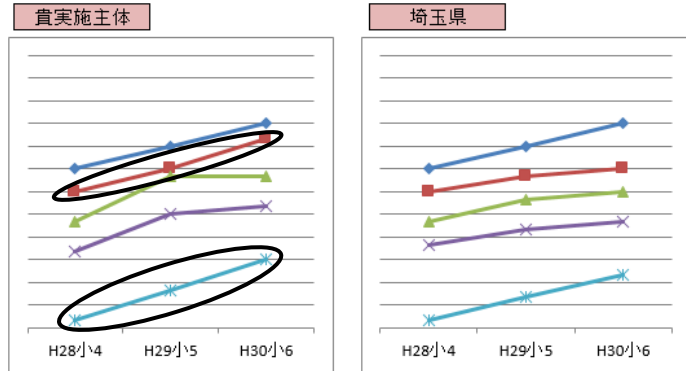
## 小学校5年生→小学校6年生の取組

### (1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

#### 今までの学力の変化



#### 学力の伸びの状況



- 学力のレベルは、小4時、県平均と同等であったが、小6時では県平均を上回っている。
- 上位層、最下位層の学力の伸びが大きい。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア、思考の深まりを意識した話し合い活動

課題に対して一人一人が自分の考えを持てるように時間を確保するとともに、自分の考えの方向性を明確にしてからペアや小グループの話し合い活動を行わせ、全体での共有の時間をしっかり確保した。そして、再度個人の考えを振り返る時間をとり、自分の考えを再構築させ、より深い学びへとつなげていった。

#### イ、低位の子にも課題が把握しやすくなる導入の工夫

個人の学びに関する深度の差をなくすよう、授業内において具体的な操作をしながら課題把握を行えるようにした。また、ゴールを確実に理解させ、全員が見通しをもって学習に臨めるよう「導入部のスタートをそろえる」ことに重点をおき、一人一人が主体的に取り組める素地づくりをした。



具体物を通してスタートをそろえる

### 学校全体での取組

ア、研究授業において、全職員がグループワークを行い、「主体的・対話的で深い学び」の土台となる「インクルーシブ教育」の視点で協議することで、より良い授業づくりを目指せるよう研修を進めた。

イ、授業で学習したことを生かす場として、「にっしーからの挑戦状」というコーナーを設置し、学んだことが日常生活の中で生かせることを実感させ、主体的に授業に取り組めるようにした。

ウ、インクルーシブ教育の考え方に重点を置いた「集中しやすい学習環境」の整備や、掃除の仕方や活動の指示掲示などを工夫することで、すべきことが一目で分かるようにし、どの児童も安心して生活ができるようにすることを心がけ、学習規律の徹底を図った。



前面スッキリ、見通しをもたせる掲示

10/15 ~ 10/26

にっしーからの挑戦状④

にっしーからの挑戦状、2回目のもんだいは、**簡単**だよ！

ぼくの園には、みかんの木とりんごの木があるんだ。

おいしそうなお菓子ができたよ。

**もんだい**

みかんが5こ、りんごが4こなっています。にっしーが2こみかんを食べました。残りの白、新しく、みかんが4こ、りんごが6こなりました。

今、みかんの木には、なんこのみかんがなっているでしょう。

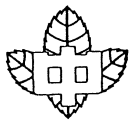
④

にっしーからの挑戦状(低学年)

登校時の指示掲示  
荷物整理 名札つけ 宿題提出  
体育着に着替える トイレ・水のみ







# 桶川市立加納中学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、桶川市の東部に位置し、本年度は開校 38 年目を迎える学校である。全校生徒数は、371 人、学級数は 11 学級の小規模校である。

学校教育目標「きらめく心 光る汗」のもと、全教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。平成 26 年度から 28 年度まで「考え、話し合い、学び合う学習」推進校として埼玉県教育委員会の委嘱を受け、「学び合い」の学習形態、学習効果を研究してきた。昨年度からは、桶川市教育委員会の委嘱を受け、「主体的に学び、確かな学力を育む指導方法の研究」を主題とし、学力向上に関する学校課題研究を進めている。

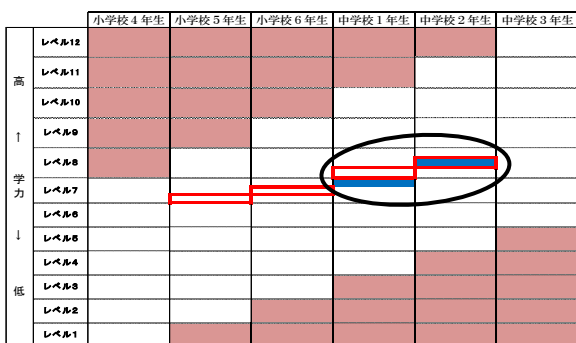


## 2 平成 29・30 年度の結果

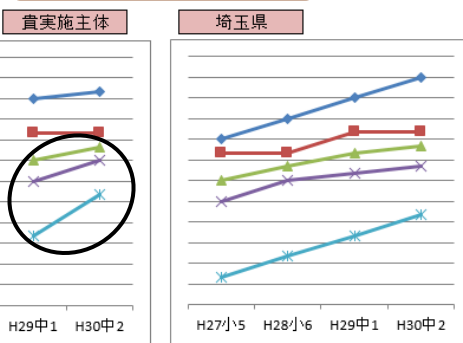
### 中学校 1 年生→中学校 2 年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

##### 今までの学力の変化



##### 学力の伸びの状況



- 国語の学力のレベルが中 1 時は県平均を下回っていたが、中 2 時では県の平均まで伸びた。
- 中位層・下位層・最下位層の学力の伸びが大きい。

#### (2) 「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

##### ア、「学び合い」を活性化させる授業展開

本校では、これまでの「学び合い」の研究において、「主体的に学ぶ生徒」を育てることを目標としてきた。授業のねらいを達成するための活動となるように、「思考ツールを使う」「生徒をアクティブに動かす」という学習形態だけにこだわらず、次の事項について留意している。

- ① 「学び合い」の活動を取り入れる際は、教師と生徒が学びに向かう「見通し」をもった授業展開を行う。具体的には、教師の立案した単元計画を生徒に示し、生徒に授業のゴールを意識させるとともに、既習事項の「振り返り」を通して、これから行う学習との系統性や関連性を理解させるようにしている。
- ② 「個人で考える場面」と 3～4 人の「グループで深める場面」を意図的に授業に組み込んでいる。支援の必要なグループには、T・Tにより学習に不安の残る生徒が取り残されないように配慮している。



##### イ、スモールステップでの支援

作文の授業では、苦手意識をもっている生徒が多い実態から、単元のねらいと書く手順に沿って文を直接書き込めるワークシートを作成した。下書きに力を入れて文を考えさせる、書きたいことや伝えたいことをまとめる、などスモールステップでの支援を行った。

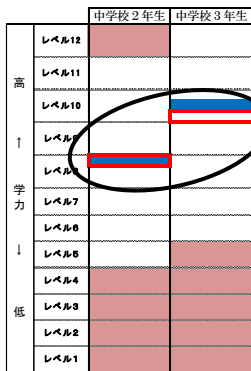
##### ウ、学習の見届け

漢字や文法など、基礎的な内容を補うため、既習事項を生徒が自らの状況を把握できるよう確認を行っている。理解が不十分な生徒には、確実に定着できるよう、放課後の補習を行って見届けている。

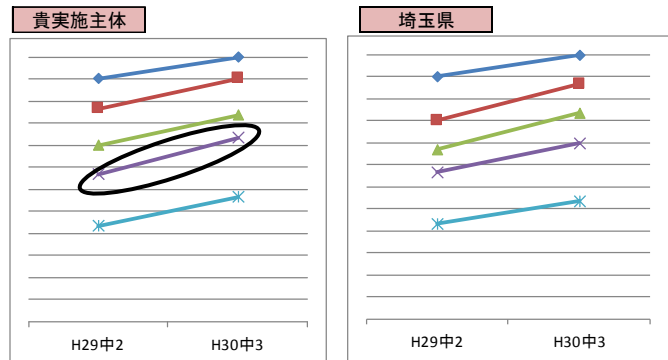
## 中学校2年生→中学校3年生の取組

### (1) 学力の伸びから見られる特徴【英語】

#### 今までの学力の変化



#### 学力の伸びの状況



- 英語の学力の伸びが県の伸びを上回っている。
- 下位層の伸びが大きい。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア、基礎的な内容の定着

1年生から毎時間5分程度、前時の単語・新出文法の復習テストを行っている。また授業の終わりにも1行英作文を行い、毎時間2文以上は英作文のテストをする時間を設けている。次の授業までに生徒一人一人の理解度を把握し、必ずフィードバックを行っている。

#### イ、流れがわかる授業づくり

授業をパターン化し、1時間の流れを黒板に提示し、英語の授業を受ける上で下位層の精神的な負担や不安を軽減できるようにしている。

#### ウ、学び合いを意識した授業づくり

各クラスに英語リーダー・サブリーダーを設け、友人関係や学力を考慮した英語専用の席を設定している。毎時間の復習テストでは解答できた生徒が先生(small teachers)になり、できる限り多くの生徒が個人的に学ぶことができる場面を設定した。教えてもらう立場の生徒はもちろん、small teachersは教えることで新たな気づきがあると実感しており、双方が意欲的に取り組んでいる。



## 学校全体での取組

#### ア、生活規律・学習規律の徹底

県の調査結果からも、非認知能力を向上させることで学力が高まることがわかってきた。学校課題に取り組む前提として、学習規律が身に付いていることが不可欠であると考えている。本校では、チャイムで休み時間から授業への切り替えができ、落ち着いた雰囲気の中で学習する環境をつくるために、数年前から「加中五か条」を設定して授業規律確立のための取組を行っている。その際、まずは教師が共通理解・共通行動を心がけ、自ら率先垂範の姿勢で、「5分前に教室へ」「休み時間の見届け」等を実践し、生徒に声かけ・指導を行った。

また、生徒の中央委員会と生活委員会が中心となり、「チャイム着席」「気持ちのよいあいさつ」等の取組を全校で行うなど、生徒たちの自主的な活動もみられるようになった。現在では、生徒の意識の中で「あいさつができる」「チャイムで授業が開始できる」が、加中生として当たり前に行えることとなりつつある。

#### イ、コバトン問題集の活用

学習内容の定着をさらに図るため、コバトン問題集を学年末の授業や、春季休業の課題として取り組んでいる。教師はその状況を把握し、授業展開を工夫するなど学習内容の確実な定着を図っている。





# 富士見市立本郷中学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、まもなく 50 周年を迎える市内で 2 番目に古い中規模校である。縄文遺跡の水子貝塚を学区内にもち、古代より人々が住まう歴史ある地域で四季折々の風情織りなす新河岸川や、実り豊かな田園地帯に囲まれた環境の中、夢と感動と思いやりがあふれ、誰もが成長を実感できる学校づくりを実践している。生徒理解に努め、教育相談活動を充実させ、一人一人を大切にする教育を推進、成果をあげ、生徒や保護者の願いを実現するために学力・体力の向上に取り組んでいる。

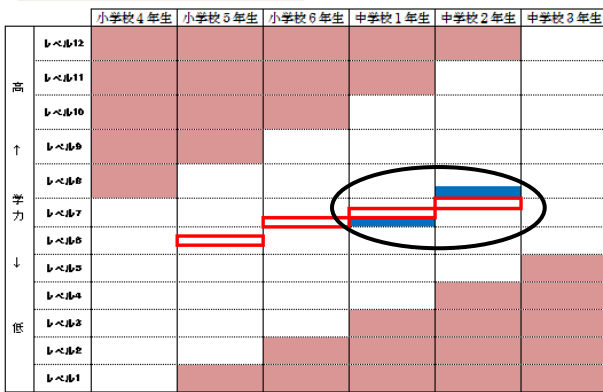


## 2 平成 29・30 年度の結果

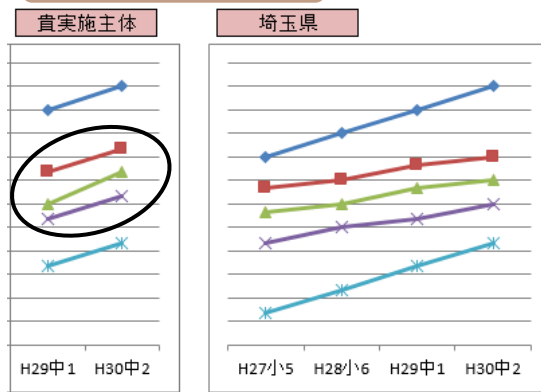
### 中学校 1 年生→中学校 2 年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【数学】

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



- 中 1 時は、数学の学力レベルが、県平均を下回っていたが、中 2 時は県平均を上回った。
- 上位層・中位層・下位層とすべてのレベルの生徒に大きな伸びがみられた。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア、「習熟度別学習」と「教え合い学習」の取組

- ・加配教員を活用して、單元ごとに学級を 2 つに分けて習熟度別学習に取り組んだ。
- ・生徒相互が解き方などを教え合う学習を取り入れた。数学が得意な生徒がリーダーとなって、解き方を教えたり、様々な考え方を共有し合ったりすることで理解をより深めることができた。
- ・生徒が全体の前で自分の考えた解き方や授業のまとめを自分の言葉で発表する活動を行った。

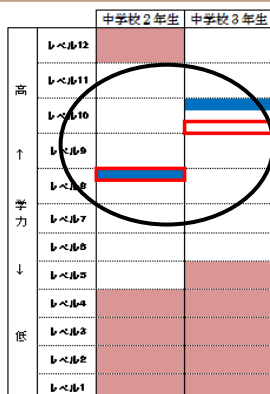
##### イ、定期テストの工夫・改善と家庭学習ノートの取組

- ・「学習に関するアンケート」を定期テストごとに実施し、興味・関心、意欲、授業の評価、自身の理解度、達成度の 5 項目について把握し、授業の進め方や指導法の改善に役立てた。
- ・家庭学習ノートを活用し、テストの振り返りや自主学習を促し、努力している生徒については表彰を行った。模範的なノートの取り方を紹介し、学習への取り組み方など個別に指導を行った。
- ・独自の實力テストを実施し、問題ごとに解答傾向や要因分析を行い、指導の改善を図った。

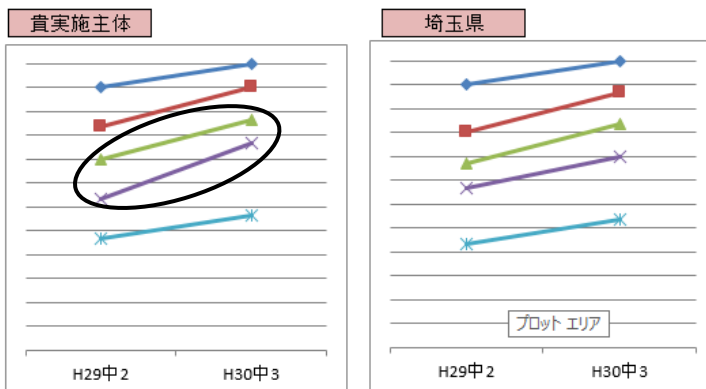
## 中学校2年生→中学校3年生の取組

### (1) 学力の伸びから見られる特徴【英語】

#### 今までの学力の変化



#### 学力の伸びの状況



- 英語の学力の伸びが県平均を上回っている。他教科も同様の傾向である。(校内で独自調査)
- 中・下位層の伸びが著しい。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア、生徒の実態に合わせた授業改善

- ・ 「学習に関するアンケート」に基づいて生徒の意識をとらえ、意欲を高め、学習の成果を実感させるように授業改善を図ることで教科に対する苦手意識を取り除いた。
- ・ 英語教員とALTが英語を楽しく学ぶためのアクティビティを積極的に考案し、英語好きの生徒を増やした。

#### イ、リスニングと単語の学習を大切に

- ・ 「英語を聴いて分かる」ことが大切であることから、できるだけ英語で授業を進め、またリスニングの学習に適した教材を選んで取り組んだ。また単語の習得を重視し、繰り返し覚えさせた。

#### ウ、英語検定の積極的な導入

- ・ 生徒の英語に対する興味・関心を高めるために英語検定を通した取組を進めた。
- ・ 「英検クラブ」と称した放課後及び休日の学習会を開いて指導に当たった。
- ・ 卒業までに全員の英検（または漢検）取得を目標に全校あげて取り組んでいる。

## 学校全体での取組

#### ア、全教科で共通した「学習に関するアンケート」の実施による根拠に基づく授業改善

- ・ 年5回、10教科5項目について全生徒の自己評価を集めたデータを全教職員で共有している。
- ・ 定期テストの結果も集計表に含めてあり、個々の学習成果と合わせて分析することができる。

#### イ、家庭学習ノートの取組と評価

- ・ 毎日2時間以上の学習を課しノートを提出させている。成果を学期ごとに表彰している。
- ・ 小中連携を視野に「9年間をとおした家庭学習の手引き」を作成している。

#### ウ、授業規律「学習の五カ条」と生活の約束「十の戒め」を柱にした基本的生活習慣の確立

- ・ 「学習の五カ条」を定め、全授業で共通して守らせることで落ち着いた授業が展開されている。
- ・ 基本的生活習慣の確立が学習を支える基と考え、「十の戒め」を定めて指導を徹底している。

#### エ、学校だより、職員室だより、朝会や集会で学習に対するポジティブキャンペーンを展開

- ・ 集会や学校だより等で、学ぶことの意義、学校の役割、勉強の楽しさ・大切さなどのポジティブキャンペーンを行うことで、苦手意識を払拭し、前向きに学習に取り組むようになってきている。

#### オ、進路・キャリア教育の充実とボランティア活動の推進

- ・ 2年生の段階から具体的な進学等の情報を提供し、学習に向かうモチベーションを高めている。
- ・ 非認知能力の育成と自己肯定感向上のため積極的にボランティア活動への参加を促している。
- ・ 自己肯定感やプライドを高めるため様々な活動に参加させ、表彰などによって評価している。





# 深谷市立花園中学校の取組

## 1. 本校の概要

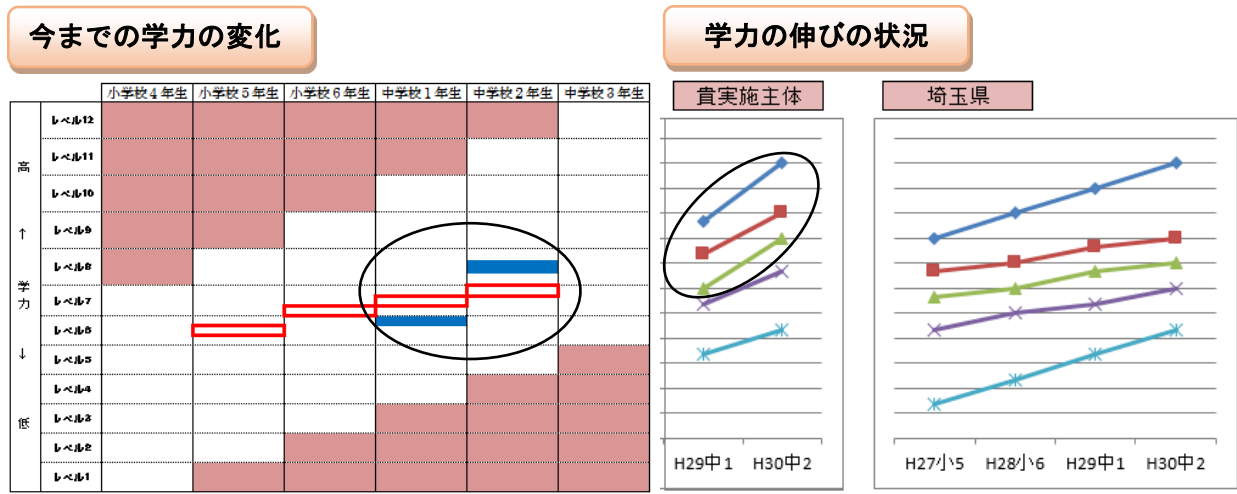
本校は、深谷市の南西部に位置し、本年度は、開校 72 周年を迎える学校である。全校生徒数は、326 人、学級数は 11 の中規模校である。

学校教育目標「真摯に学ぶ生徒、心を磨く生徒、体を鍛える生徒」のもと、めざす生徒像「ふるさと花園を愛し、夢とところざしをもち、まごころと思いやりのある花中生」の育成と「居がい やりがい 生きがい のある学校」の推進に向け全校職員が一丸となって取り組んでいる。学校研究課題を「授業力を高める教師の育成～学力向上に向けた日々の取組を通して～」と設定し、授業力の向上を中心に研究を進めている。

## 2. 平成 29・30 年度の結果

### 中学校 1 年生→中学校 2 年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【数学】



- 数学の学力のレベルが5上昇しており、県平均の伸びを上回っている。
- 全体的に大きな伸びが見られるが、特に最上位層、上位層・中位層の「学力の伸び」が大きい。

#### (2) 「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

##### ア、学び合いの実践

エキスパート活動やジグソー活動を取り入れ、数学的な表現を使って自分の考えをわかりやすく説明する活動を多く取り入れる授業を展開した。

##### イ、教え合いの実践

個々で解決するには難易度の高い課題を設定し、意図的に組んだ小グループ（4人程度）で解決を図る取組を行った。

まず、個人で考え、課題を解決できた生徒に発表させ、その後、グループで互いに説明し合う（教え合う）時間を必ず確保した。



##### ウ、補充学習の充実

単元終了時に評価テストを実施し、合格点に満たない生徒を昼休みや放課後に集め補習を行い、基礎・基本を徹底させた。補習には、複数の教員で対応し、個別指導により分かるまで、できるまで指導した。





# 越谷市立南中学校の取組

## 1 本校の概要

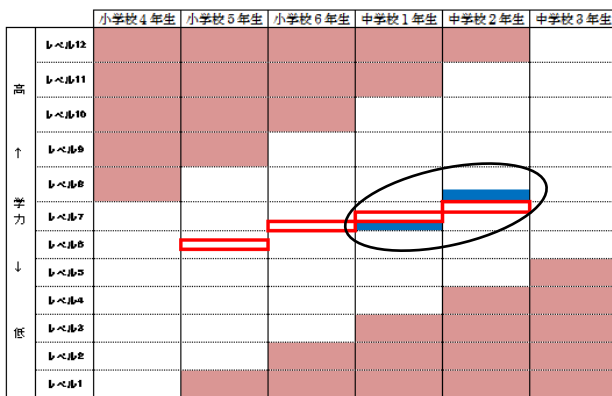
本校は越谷市の南部に位置し、全校生徒 589 人、学級数は特別支援学級も含めて 21 学級の中規模校である。学校教育目標「豊かな人間性を持ち、自立して生きる生徒の育成」に向けて職員全員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。小中一貫教育にも力を入れ、「夢を語り、夢の実現に向けて努力できる児童生徒」の育成に努めている。

## 2 平成29・30年度の結果

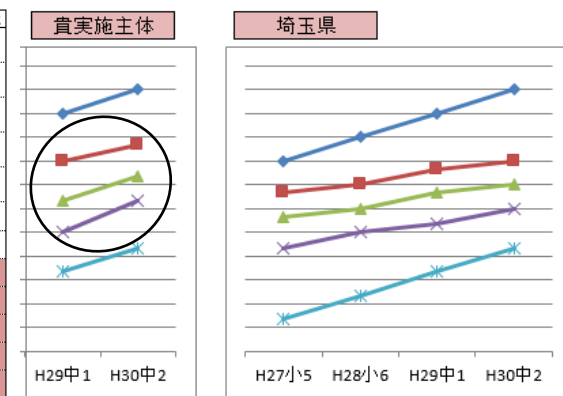
### 中学校1年生→中学校2年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【数学】

##### 今までの学力の変化



##### 学力の伸びの状況



- 中1時は県平均を下回っていたが、中2では県の伸びを上回り、県平均も上回った。
- 上位層・中位層・下位層のどの層も、県平均より伸びが大きい。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア、問題解決型授業の実践

板書に使用している「問題」や「課題」等のマグネットシートの言葉を小・中学校間で統一し、板書の流れをそろえた。年度当初に数学科全員で授業の進め方を確認し、授業を同じように進めるようにした。特に課題設定の場面では、生徒が自発的に課題を考えることができるように促した。

##### イ、対話的で深い学びを意識した授業

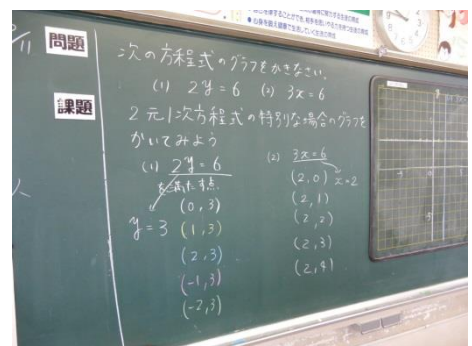
自分の考えを発表する機会を多く設けた。特に4人グループでの話し合いを頻繁に行った。

##### ウ、個に応じたきめ細かい指導

新しい単元に入る前にレディネステストを実施し、生徒の希望を確認したうえで習熟度別少人数指導を実施した。該当単元を苦手と感じている生徒のクラスを16人以下になるように配慮した。また、宿題を出す際は、次の授業前に全員の実施状況を確認してから授業を始めることで、宿題に取り組まない生徒を0にした。

##### エ、復習シートの活用と生徒の学力分析

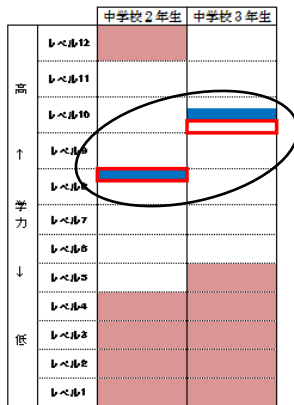
復習シートに記載されている問題を授業で扱った。また、定期テストに出題して正答率を出し、解けない理由を分析し、指導に生かした。



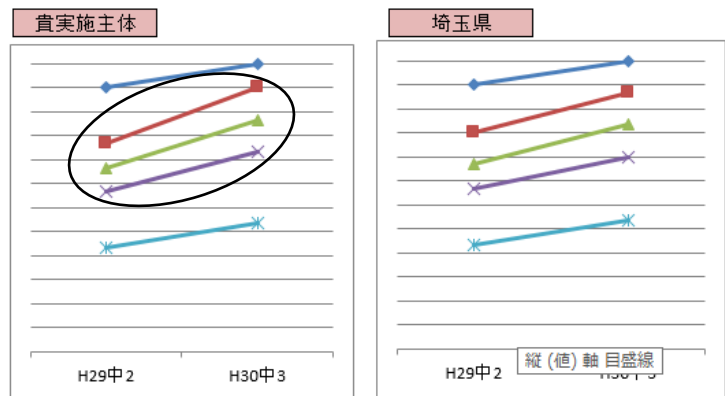
## 中学校2年生→中学校3年生の取組

### (1) 学力の伸びから見られる特徴【英語】

#### 今までの学力の変化



#### 学力の伸びの状況



- 中2では県平均と同じ学力レベルであったが、中3では県平均を上回っている。
- 上位層・中位層・下位層とも学力の伸びが県平均より大きい。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

生徒が主体的に学ぶために以下の取組を行った。

#### ア、自己肯定感の高揚を図る対話的で深い学びを意識した授業

主に英語の長文読解や、社会の資料集など他教科の知識も必要になる難易度の高い問題を出题し、4人のグループ活動で取り組ませた。また、ICTの活用などで板書時間を短縮し、演習問題に取り組む時間が十分に確保され、早く解き終わった生徒が苦手な生徒に教えることで、全員が最後まで諦めずに解けるようにした。これにより、生徒同士が認め合い、自己肯定感の高まりが見られた。

#### イ、学習BOXの設置

学年廊下に、生徒が自由に持ち帰り学習できるプリントBOX（英語科独自）を設置した。プリントの内容は、文法ごとの演習問題、単語リスト、長文読解など、生徒が自分の理解度に合ったものを選ぶように、学習内容ごとに多種準備し、自ら学べる環境をつくった。

## 学校全体での取組

#### ア、小中一貫教育の取組

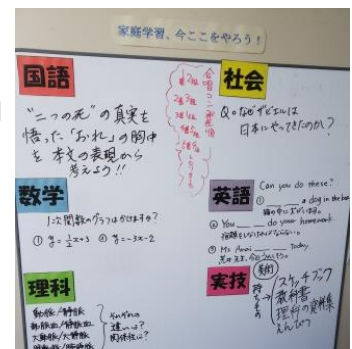
「夢を語り、夢の実現に向けて努力できる児童生徒」を目指す生徒像に掲げ、学習部会、生活部会、調査部会の3つに組織を分け、授業交流会、合同研修、学期に一度のチーフ部会など様々な面で情報交換を行っている。ノートの作り方や学習規律、生活規律など小学校から継続していることが多く、安心して学習に取り組んでいる。

#### イ、家庭学習の定着

全教科、本時の授業の「ねらい」を明確化し、授業の「振り返り」を実施している。家庭学習においては、学習のポイントを教科担当の先生が学年黒板に記入し、毎日家庭学習の状況を点検している。さらに長期休業日やテスト前など教科別で補習を行い、継続してアドバイスをしている。

#### ウ、特別活動における学習指導の充実

学習に関する学級活動を、①学習方法について、②学習時間の確保について、③先輩と語る会と3回実施した。家庭において、学習に取り組もうと思っても方法が分からない、時間がないなどの理由で取り組めない生徒に、取組のサンプルを多く提示し、学ぶ意欲を向上させた。



家庭学習のポイントを教科担当が学年黒板に記入